

令和5年度 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： 超多剤耐性結核菌同定プロジェクト：超多剤耐性結核菌あるいはその前段階にある耐性結核菌を特定する遺伝子マーカーの探索
研究開発代表者名： 御手洗 聡（結核予防会結核研究所）

本課題は、当初の計画どおり Pre-XDR/XDR-TB と MDR-TB の比較により、薬剤耐性に関与する特異的な遺伝子変異を特定し、結核感染者の多いフィリピンにおいて薬剤耐性推定モデルを構築した。さらに、日本側で作成した標準手順書をもとに薬剤感受性検査法の技術移転をリモートで行うなど、現地の技術力向上に貢献した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、フィリピンへの訪問が制限されたことやフィリピン側の研究がしばしば中断したため、データ取得が遅れ、目標としていた耐性予測最適化モデルの構築までには至らなかったのは残念であった。また、研究計画にあった DNA のメチル化が薬剤耐性化へ及ぼす影響の解明についても、引き続き検討が必要である。3か国の研究成果を共著論文として発表することや、若手研究者のキャリアパス支援を行うために、継続的な国際連携体制の維持が求められる。本プロジェクトで得られた成果、および国際連携を基盤として採択された NIH の研究助成の支援のもと、今後のさらなる展開が期待される。